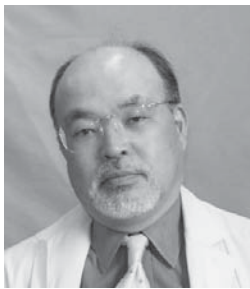


脳神経外科



副院長
塚原 徹也

専門医資格等
日本脳神経外科学会
専門医
日本脳卒中学会 専門医
専門分野
脳神経外科
得意疾患
脳血管障害



診療科長
福田 俊一

専門医資格等
日本脳神経外科学会
専門医
日本脳卒中学会 専門医
専門分野
脳神経外科
得意疾患
脳動脈瘤
良性脳腫瘍
頭蓋底手術
バイパス術

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	青木 友和	日本脳神経外科学会 専門医 日本脳卒中学会 専門医 日本癌治療学会 暫定教育医	脳神経外科	悪性脳腫瘍、顔面痙攣、三叉神経痛
医 師	川端 康弘	日本脳神経外科学会 専門医 日本脳卒中学会 専門医	脳神経外科	脳血管障害、脳血管内治療、脳腫瘍

□ 診療科の特徴

施設認定等 日本脳神経外科学会研修施設

1. 当科は、脳卒中や頭部外傷などの脳神経外科領域の救急疾患に24時間対応し、地域救急医療に貢献していると同時に、困難な脳神経系疾患に対して集約的な治療も行っています。
2. 脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患など脳神経外科領域全般にわたって、患者さんの入院および外来加療を行っています。
3. 脳神経外科領域の疾患では、緊急に手術等の処置を行わなければ生命にかかわる場合もあれば、逆に病気はあるものの、定期的に外来で経過を観て行くことが適当である場合もあります。
4. 上記3のような場合を除けば、手術をすべきかどうかは、その疾患自体だけではなく、症状や年齢、全身状態、手術の難易度、さらには患者さんの性格や家族構成などを考慮して決めるべきであり、たとえ同じ疾患でも個々の患者さんによって方針が異なってきます。
5. 私たちは、患者さんご自身やご家族に十分に病気についての説明をし、相談をした上で、インフォームドコンセントをとり、その上で適切な治療方針をとることが大切であると考えています。
6. いったん手術が必要であると決まった場合には、たとえ難易度の高い手術でも、従来の顕微鏡を用いた開頭手術に加え、血管内手術や神経内視鏡手術などの様々な手術法を用い、積極的に治療を行っています。

□ 主な対象疾患

- ・脳血管障害(脳梗塞・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳内出血・その他の脳血管障害)
- ・脳腫瘍(グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫)
- ・神経内視鏡手術
- ・頭部外傷
- ・機能的脳神経外科(顔面けいれん・三叉神経痛)

□ 診療(業務)内容

- ・脳血管障害(脳梗塞に対する血行再建術・破裂および未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術・脳内出血に対する開頭摘出術、内視鏡手術)
- ・脳神経血管内治療(脳動脈瘤塞栓、ステント設置、腫瘍塞栓、脳動静脈奇形塞栓など)
- ・脳腫瘍(グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫)に対する摘出術
- ・神経内視鏡手術(下垂体腫瘍、脳室内腫瘍、水頭症、脳内出血など)
- ・頭部外傷(血腫除去術)
- ・脊椎背髄疾患
- ・機能的脳神経外科(顔面けいれん・三叉神経痛に対する神経減圧術)
- ・頭蓋底および頸部腫瘍: 腫瘍摘出および血行再建術

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
23.7名	370名	22.6日

外来患者数

1日平均患者数
36.6名

主な手術・検査の件数など

脳動脈瘤	脳腫瘍	脳血管内手術	脳動静脈奇形
17件	57件	39件	2件
頸動脈内膜剥離術	血管バイパス術		
14件	12件		

□ 地域医療連携・広報活動

第10回脳卒中市民講座 2012年12月8日 於;京都医療センター

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
国内学会	塚原徹也、浅原哲子、大谷良、中久木卓也;急性期脳梗塞患者における薬物治療法の効果。第37回日本脳卒中学会総会 2012年4月26日~28日 福岡
国内学会	福田俊一、塚原徹也、青木友和、中久木卓也、後藤正憲、新井大輔、安里亮;頭頸部悪性腫瘍の治療経過における脳血管血行再建術について。第37回日本脳卒中学会総会 2012年4月26日~28日 福岡
国内学会	中久木卓也、浅原哲子、村中和也、佐々木洋介、山陰一、塚原徹也、大谷良、園部眞、江面正幸、高橋立夫、吉岡亮、矢野正弘、堤圭介;脳梗塞と血中アディポサイトカイン、炎症マーカーとの関連について。第37回日本脳卒中学会総会 2012年4月26日~28日 福岡
国内学会	浅原哲子、村中和也、佐々木洋介、山陰一、塚原徹也;頸動脈プラーク内のマクロファージ浸潤と炎症性サイトカインの発現に対する糖尿病の影響。第37回日本脳卒中学会総会 2012年4月26日~28日 福岡
国内学会	大谷良、浅原哲子、中久木卓也、山陰一、端祐一郎、村瀬永子、中村道三、塚原徹也;脳梗塞危険因子と頸部超音波所見、アディポサイトカインとの関連。第37回日本脳卒中学会総会 2012年4月26日~28日 福岡
国際学会	Aoki T, Mizutani T, Nojima K, Takagi T, Okumura R, Yuba Y, Ueba T, Takahashi JA, Miyatake S. Nozaki K, Taki W. Matsutani M; Phase II Study of Ifosfamide, Carboplatin and Etoposide for Patients with Glioblastoma at first relapse. 19th International Brain Tumor Research and Therapy Conference 2012.6.21-24 Toronto Western
国際学会	Aoki T, Mizutani T, Nojima K, Takagi T, Okumura R, Yuba Y, Ueba T, Takahashi JA, Miyatake S. Nozaki K, Taki W. Matsutani M; Phase II Study of Ifosfamide, Carboplatin and Etoposide for Patients with Glioblastoma at first relapse. 10th Meeting of the European Association of NeuroOncology 2012.9.6-9 Marseille
国際学会	T.Tsukahara, N.Sato-Asahara, R Ohtani, T.Nkakuki;Effect of Medisation for metabolic syndrome Related Risk Factors, Hypertension, Diabetes Mellitusand Dislipidemia in Acute Stroke Patients. 8th World Stroke Congress 2012.10.10-13 Brasilia
国内学会	青木友和、西川亮、杉山一彦、隈部俊宏、植木敬介、山本哲哉、竹島秀雄、有田和徳、松谷雅生;悪性神経膠腫に対する新規 脳内局所留置用の放射性製剤NPC-08 (Gliadel Wafer) 多施設共同第 I / II 相臨床試験。日本脳神経外科学会総会 2012年10月17日~19日 大阪

国内学会	川端康弘、山下耕助、西川智文、青木友和、福田俊一、塚原徹也;術前のプラーク診断は頸動脈ステント留置術の治療成績向上に役立つか?. 日本脳神経外科学会総会 2012年10月17日~19日 大阪
国内学会	福田俊一、塚原徹也、青木友和、西川智文、川端康弘 安里亮;当院における広範囲頭蓋脳腫瘍切除・再建術の治療成績について. 日本脳神経外科学会総会 2012年10月17日~19日 大阪
国内学科	川端康弘、中久木卓也、西川智文、青木友和、福田俊一、塚原徹也;下垂体腫瘍に対する経鼻的内視鏡手術の治療成績. 第19回日本神経内視鏡学会 2012年11月2日~3日 東京
国内学会	川端康弘、西川智文、青木友和、福田俊一、塚原徹也、大谷良;総頸動脈病変に対してステント留置術を行った2例. 第28回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 2012年11月15日~17日 仙台
国内学会	Tomokazu Aoki, Arakawa Yoshiteru, upper feather Tetsuya, Masato Hojo, Koichi Iwasaki, Kazuhiko Sugiyama, Susumu Miyamoto;Phase I/II study of the combination of Temozolomide with ACNU chemotherapy (TA therapy) for recurrent malignant gliomas Kyoto Brain Tumor Group. 第30回日本脳腫瘍学会学術集会 2012年11月25~27日 広島

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Jpn J Clin Oncol 2012	Motoo Nagane, Ryo Nishikawa, Yoshitaka Narita, Hiroyuki Kobayashi, Shingo Takano, Nobusada Shinoura, Tomokazu Aoki, Kazuhiko Sugiyama, Junichi Kuratsu, Yoshihiro uragaki, Yutaka Sawamura and Masao Matsutani; Phase II Study of Single-agent Bevacizumab in Japanese Patients with Recurrent Malignant Glioma ;42(10)887-95doi:10.1093/jjco/hys121
European Journal of Radiology 81 2012	Fumiyuki Yamasaki, Kaoru Kurisu, Tomokazu Aoki, Masami Yamanaka, Yoshinori Kajiwara, Yosuke Watanabe, Takeshi Takayasu, Yuji Akiyama, Kazuhiko Sugiyama; Advantages of high b-value diffusion-weighted imaging to diagnose pseudo-responses in patients with recurrent glioma after bevacizumab treatment, (10) 2805-2810